

国土計画体系見直しの考え方

国土を取り巻く状況等

人口減少、少子・高齢化
都市への集中、地方の衰退
財政制約
経済社会のグローバル化
国際的な競争力・魅力の低下
地球規模での環境問題
安全・安心な国土づくりへの要請

国土計画の課題

良好な国土継承への利用・開発・
保全の総合指針へ
地方分権への対応
指針性の向上

これまでの国土計画への批判

- ・開発重視からの転換が必要
- ・地域づくりの中央依存構造を助長
- ・地域の個性の喪失
- ・施策の重点、優先度が不明確
- ・計画体系が複雑
- ・計画目標の進行管理が不十分
- ・住民参加の視点の不足 ...

国土計画体系見直しの基本的考え方

開発重視から利用・開発・保全の指針としての一つの国土計画へ

- ・全総計画と国土利用計画(全国計画)を統合
- ・全国、広域ブロック、都道府県、市町村までの一連の計画の体系化(計画推進力の強化)

国と地方の対等なパートナーシップを基軸とした、開かれた計画づくり

- ・国の計画策定への地方公共団体の参加、Pの導入等計画策定への多様な主体の参加
- ・広域ブロック計画については、地域の主体が参加・協議して原案を作成する仕組みへ
- ・計画の策定・変更之际、国と地方公共団体の双方向の意見交換を具体化する仕組みへ

国土の将来構想を示す基本計画としての指針性の向上

- ・全国計画は国家が戦略的に行うべき事項等に計画内容を重点化し、絞り込むなど、全国計画と広域ブロック計画の役割分担を明確化

策定・推進・評価のプロセスを通じた計画の進行管理

- ・目標の体系化、アウトカム指標等の提示による目標管理型の計画制度へ
- ・国土のモニタリングの継続的な実施と国土に関する諸情報の積極的な公開・提供

総合的な土地利用の指針としての役割の向上

- ・国土、地域の将来構想と即地的な土地利用計画との体系化
- ・住民参加、計画間調整・連携の仕組みを通じた総合的な土地利用計画としての調整機能の強化

国土計画体系の抜本的見直し

国土の新たな整序と活力づくり